「主に向かって賛美する教会」を目指して(2020.5.17)

あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。【詩 22:3 新改訳】

先月の 19 日、現住陪餐会員 42 名中、委任状 16 名を含む 32 名の出席を得て、総会が開かれ、昨年度の報告並びに新年度の方針が協議・承認された。昨年度は、年度目標として「祈りの家と呼ばれる教会に！」を掲げ、折に触れて共に祈る機会を心掛けた。特に 10 月には野口誠牧師を迎え、「聖書の神は全能である」というテーマで、祈りへのチャレンジを受けた。だが、祈りの家と呼ばれる教会にはスタートに着いたばかりである。今年もお互い継続して祈りを心掛けていきたい。

今年度の目標を「主に向かって賛美する教会」とした。それは「主を賛美するために民は創造された。」（詩 102:19）とあるように、賛美こそ礼拝共同体の存立する目的であり、どこに目を向け、どこに心を向けて賛美を捧げるかは極めて重要なことである。「主に向かって」である。「新しい歌を主に向って歌え。全地よ、主に向かって歌え。」（詩 96:1）と繰り返される。私たちが賛美を捧げる時、歌詞を間違えないようにとか、メロディーをはずさないようにとか、気を付けることはもちろん大事である。しかし、それ以上に主を意識し、主に向かって賛美する事である。ともすると、歌詞やメロディに心が奪われて、肝心の主に向かっていないということがしばしばあるのではないでしょうか。主を意識しないならば賛美はなんと虚しいことだろうか。賛美する私たちの賛美の中に主が住まわれるとある（詩 22:3 新改訳）。賛美は深い！まさに賛美こそ、礼拝の充実を左右する条件でもある。このことを自覚しながら「主に向かって」賛美する一人ひとりでありたい。

そこで、今年 10 月には「賛美の心」を学び、指導していただくために、高浪晋一先生（教団讃美歌委員会）をお迎えして、講習会と奨励をお願いしている。是非、この機会を活かしたいものである。こうして、集う者が喜び勇んで派遣される礼拝を捧げるよう、聖霊の導きを切に願いつつ、お互い心掛けたい。